

名松線事故・マスコミが強く指摘！ JR東海という組織の安全管理体制に不信感を持つ！ 事故を軽視する空気が感じられる！ 社会に対して鈍感！

5月3日、中日新聞に4月19日名松線で発生した無人走行事故に関する記事が掲載されました。記者会見で沿線住民への謝罪がないこと、そして、会社幹部が「本線じゃないから」と事故を軽視するの発言をするなど、安全に関する会社の感覚・根本に問題があることを指摘しています。さらに、個人の責任追及ばかり、JR東海のおごりを感じると痛烈に会社の安全に対する姿勢を批判しています。

会社は、4月23日の経営協議会でも「社員がやるべきことをやっていなかった」と強調し、沿線住民へ謝罪すべきではないかという質問についても「対策を通じて、会社の認識を世の中にお知らせすることで実施していく」と見解を明らかにし、あらためて謝罪する意思のないことを表明していました。

今回、マスコミから強い指摘を受け、沿線住民、乗客の命を預かる企業の責任として、まずは社会に謝罪し二度と事故を起こさないという強い意志のもと「真の対策」を構築すべきです。

運転士の事情聴取中だが、個人の責任を追及するばかりで、
構造的な部分を考えなければ同じことが繰り返される！

■ JR名松線の無人列車走行事故



原 元平
(社説)

ミス我问う

過小評価の空気に危うさ

四月十九日深夜、列車が無人の主要八・五号走事故が起きたJR東海の鉄線。一週間ほど経過後に発生した事故から、沿線住民への謝罪が聞かれない。車中、目撃したのは年寄りの客。

三年前二度、濃霧しどるすは、大騒ぎにならなかつたが、これも、あんなにヤブヤブと、赤字路線から隠されたらならぬ。終戦後の伊勢鉄道で、降りた、勇気心は、もう言って声あめだ。昨年十一月に、名松線管内の無人列車事故もあつた。

事故は、無人列車が走って、失火危険で、調査しているが、それと同じくJR東海という組織の安全管理体制、沿線住民に謝罪すも、不備を、今度も、同様の事故が起きる、人的な被害が起きる、たまたま、偶然にすぎない、にもかかわず、繰り返された事故を軽視する空気がJR東海には感じられる。

事故後、JR東海幹部が「本線じゃなければ、過小評価した責任を担った。回送車という意識もあつた。かもしれない。その感覚で、根本に問題はないか、どしどしの東海運輸新線を、自動でリア計画

四月十九日深夜、列車が無人の主要八・五号走事故が起きたJR東海の鉄線。一週間ほど経過後に発生した事故から、沿線住民への謝罪が聞かれない。車中、目撃したのは年寄りの客。

三年前二度、濃霧しどるすは、大騒ぎにならなかつたが、これも、あんなにヤブヤブと、赤字路線から隠されたらならぬ。終戦後の伊勢鉄道で、降りた、勇気心は、もう言って声あめだ。昨年十一月に、名松線管内の無人列車事故もあつた。

事故は、無人列車が走って、失火危険で、調査しているが、それと同じくJR東海という組織の安全管理体制、沿線住民に謝罪すも、不備を、今度も、同様の事故が起きる、人的な被害が起きる、たまたま、偶然にすぎない、にもかかわず、繰り返された事故を軽視する空気がJR東海には感じられる。

事故後、JR東海幹部が「本線じゃなければ、過小評価した責任を担った。回送車という意識もあつた。かもしれない。その感覚で、根本に問題はないか、どしどしの東海運輸新線を、自動でリア計画

三、四月に、JR東海は、無人列車の運行を再開する。事故の原因は、濃霧による視界の悪化と、無人運転の体制の問題にある。しかし、沿線住民への謝罪が聞かれない。これは、JR東海が事故を軽視していることを示している。また、JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。

事故の原因は、濃霧による視界の悪化と、無人運転の体制の問題にある。しかし、沿線住民への謝罪が聞かれない。これは、JR東海が事故を軽視していることを示している。また、JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。

事故の原因は、濃霧による視界の悪化と、無人運転の体制の問題にある。しかし、沿線住民への謝罪が聞かれない。これは、JR東海が事故を軽視していることを示している。また、JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。

事故の原因は、濃霧による視界の悪化と、無人運転の体制の問題にある。しかし、沿線住民への謝罪が聞かれない。これは、JR東海が事故を軽視していることを示している。また、JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。JR東海は、事故の原因を「人的要因」に限定している。これは、安全管理体制の問題を回避しようとしている。



伊勢大井
伊勢川口
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢

5月3日・中日新聞

「ニュースを問う」へのご意見は、〒460-8511 中日新聞 編集部「ニュースを問う」係へ。電子メールは、genron@chunichi.co.jp